



新年にあたって

日高農業改良普及センター所長 山黒良寛



新年あけましておめでとうございます。

生産者の皆様には、日頃より普及活動に對しまして、ご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年は、4月中旬がやや低温となつたものの6月に入ると高温・多照となり、多くの作物で平年を上回る生育となりました。8月には、大雨による被害が一部の作物で発生したことから、技術資料・災害対策情報を配信するなど皆様の営農の支えとして活動して参りましたが、総じて良好な結果となりました。また、生産者皆様の高い営農技術と適切な管理作業の賜物と思っております。心より敬意を表します。

品目別に見ますと水稲移植作業は平年並み、分けつの発生は良好となりました。冷害危険期・開花

期は、高温・多照であったことから稔実歩合は平年並み、成熟期における穂数、稔実粒数も平年を大きく上回り、作況指数108という高い収量水準となりました。品質においてもタンパクが低く、良食味を確保することができました。

牧草の一番草は、生育は平年よりやや早くなり、6月中旬に降雨が多く、収穫作業の遅れが懸念されましたが、収穫期は平年並みとなりました。収量は、やや平年を下回りましたが、乾物収量は平年比106と高い収量を確保、品質もやや良好となりました。二番草は、8月に降雨量が多く、その下旬には気温が平年を下回ったことから生育は停滞し、残念ながら収量、乾物収量とも平年を下回りました。

飼料用とうもろこしは、耕起・播種作業は順調に進み、草丈・葉数とも平年以上、また、発芽が良好であったことから10a当たり株数も多く、総重量・乾物収量とも平年以上となりました。また、生雌穂重量は、平年比112、TDN収量も平年比107と高い水準を確保できました。

野菜では、主力品目であるミニトマトは、春先から好天が続いたことで、出荷も昨年より2日早く開始されました。果実肥大・品質

も良好で、商品化率も高まり、単価は昨年よりも下がりましたが、販売金額は8億円を達成し、過去最高だった昨年を上回り記録を更新しました。

ほうれんそうなど葉菜類は、全期間を通し順調に生育し、夏場も平年並みの気温で経過したことから病害虫の発生や生理障害などは少なくなりました。取扱数量は、昨年並みでしたが、平均単価は昨年より、かなり低くなつたことから、取扱金額は、前年を下回る結果となりました。

黒毛和牛の素牛出荷頭数は、前年同比で見ると15%少なくなりましたが、前年同様に北海道市場での取引価格は、高値安定で推移したこと、販売金額は5%程度の減少に止まりました。

軽種馬は、景気回復の兆しが見える中で、依然厳しい状況にありますが、市場での売却頭数、売却率とも昨年を上回り、引き続き回復基調にあります。残念ながら平均価格は昨年より5万円程度下がりましたが、取引頭数の増加に明るい兆しを感じた生産者は多かつたことと思います。

また、ホッカイドウ競馬の発売金額は157億円となり、13年ぶりに140億円を超えた昨年以上の実績を残すことができました。特にAiba静内の発売金額は順調で、町ぐるみでホッカイドウ競馬を応援する取り組みも定着してきたことがわかります。しかし、PPP交渉の行方は未

だ不透明で、経済対策もその恩恵が地方には波及していないという意見も多く、北海道農業にとって、依然厳しい状況が続くことは間違いないと思います。

当普及センターは、軽種馬の構造改革を推進するため、引き続き「強い馬づくり」に向けた強い草づくり支援に努めて参ります。

更にミニトマトを中心とした野菜生産振興と労働対策、黒毛和牛素牛の良質生産に向けた飼料供給環境改善の強化など経営の複合化や転換促進、新規就農者の受け皿としての機能を備えた産地形成を目標とし、生産者・関係機関の皆様と共同しながら進めて参ります。

いずれにしても生産者と消費者が安心・安全な農畜産物で繋がることが重要です。顔の見える農畜産物生産に向けて、クリーン農業の実践やGAP認証に向けた活動支援、地域資源を活用した6次産業化の推進など、あらゆる場面を通して、生産者の方々の所得確保に向けて活動して参ります。

また、そこに人が残る・残れる地域づくりのなかで、農業がその中心的役割を担えるよう、地域振興に寄与して参りたいと思います。昨年は、午年にふさわしく、日高農業の飛躍に繋がる話題が多い年となりましたが、生産者の皆様におかれましては、今年も更なる発展の年となりますことを祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。